

平成 20 年 度 第 14 回 定 例 会

八王子市教育委員会会議録

日 時 平成 20 年 11 月 12 日 (水) 午後 6 時
場 所 八王子市生涯学習センター 5 階 ホール

第 1 4 回定例会議事日程

1 日 時 平成 2 0 年 1 1 月 1 2 日 (水) 午後 6 時

2 場 所 八王子市生涯学習センター 5 階 ホール

3 報告事項

- ・ 中学校における麻しん風しん集団予防接種の結果について (学事課)
- ・ 死亡者叙位の受章について (指導室)
- ・ 平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査結果の分析について (指導室)
- ・ 事業の進捗状況について

八王子市教育委員会

出席委員 (5 名)

委 員 長	(1 番)	小田原 榮
委 員	(2 番)	和 田 孝
委 員	(3 番)	川 上 剋 美
委 員	(4 番)	水 崎 知 代
教 育 長	(5 番)	石 川 和 昭

教育委員会事務局

教 育 長 (再 掲)	石 川 和 昭
学 校 教 育 部 長	石 垣 繁 雄
教 育 総 務 課 長	天 野 高 延
学 校 教 育 部 主 幹 (企 画 調 整 担 当)	穂 坂 敏 明
施 設 整 備 課 長	萩 生 田 孝
学 事 課 長	野 村 みゆき
学 校 教 育 部 主 幹 (中 学 校 給 食 担 当)	小 松 正 照
学 校 教 育 部 主 幹 (学 区 等 調 整 担 当 兼 特 別 支 援 教 育 ・ 指 導 事 務 担 当)	海 野 千 細

指導室統括指導主事	宇都宮 聡
指導室前任指導主事	山下 久也
生涯学習スポーツ部長	菊谷 文男
生涯学習スポーツ部参事 (八王子市図書館長)	坂倉 仁
生涯学習総務課長	桑原 次夫
スポーツ振興課長	遠藤 辰雄
学習支援課長	牧野 晴信
文化財課長	渡辺 徳康
生涯学習スポーツ部主幹 (スポーツ施設担当)	若林 育男
生涯学習スポーツ部主幹 (南大沢図書館長)	伊藤 文丸
生涯学習スポーツ部主幹 (生涯学習センター図書館長)	遠藤 幸保
生涯学習スポーツ部主幹 (川口図書館長)	石井 里実
生涯学習スポーツ部主幹 (こども科学館長)	森 文男

事務局職員出席者

教育総務課主査	後藤 浩之
教育総務課副主査	小林 なつ子
教育総務課主任	佐藤 秀靖

【午後 18 時 00 分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。定刻になりましたので開会いたしたいと思います。本日の委員の出席は 5 名全員でございますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成 20 年度第 14 回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。本日の会議録署名員は 2 番 和田孝委員をご指名いたします。よろしくをお願いします。

それでは、日程に従いまして進行いたしますが、本日は、この定例会のあと、市民と教育委員との意見交換会を予定しておりますので、定刻 7 時には開会いたしたいと思いますので議事進行よろしくをお願いしたいと思います。

それでは、報告事項となります。まず、学事課から順次報告願います。

野村学事課長 本年 6 月 10 日から実施していきまして、第 3 期に当たります中学校 1 年生を対象にした麻しんですけれども、本市は市立中学校の生徒には集団接種を行ってまいりました。10 月 25 日の予備日の接種を最後に本年度すべて終了いたしましたので最終報告を行います。

資料に基づきまして、学事課の保健担当主査の山本から詳細をご説明いたします。

山本学事課主査 学事課保健担当主査の山本でございます。

それでは、報告をさせていただきます。資料の方ごらんください。麻しん風しん集団接種の結果についてという資料になります。

集団接種の実施校は八王子市立の全中学校 38 校です。6 月 10 日に櫛原中学校から実施をしまして、1 学期は 27 校、2 学期は 10 月 14 日が最後になりました、第一中学校が最後になりますけれども、11 校実施をいたしました。

学校での接種日、当日体調不良などで接種ができなかった生徒がいますので、その生徒を対象にしました接種予備日というのを設けまして、9 月 6 日と 10 月 25 日、それぞれ土曜日になります、実施をいたしました。会場は保健センターや保健所で行いました。最終的には接種者が 3,986 人の生徒が接種できました。

接種率に関しましては 88.09%ということになります。こちらは東京都では、島しょを除きまして、学校で集団接種をしているのは八王子市だけということになります。

今後の対応につきましては、まだ予備日にも体調不良等の生徒さんがいらっしゃいましたので、今後は 11 月 1 日からなりますが個別接種ということで、市内の個別接種の協力

医療機関があります。こちらで個別接種を実施しております。

また、来年度の対応につきましては、今年度は今年からということで初めての実施になりまして、契約に少し時間がかかったということもありまして、実施期間が2学期まで延びてしまったのですけれども、来年度は、本来麻しんの流行時期が4月から6月、7月ということになりますので、1学期中に全校実施をする方針であります。

今年度中に、これから、来年中学1年生になります小学校6年生ですね、小学校にも連携をとりまして、罹患状況などを把握しながら小学校での勧奨とか説明をしまして、中学1年生の4月から円滑に実施ができるように準備をしたいと考えております。なお、資料の裏面になります、こちらが学校ごとの接種状況一覧表になります。学校ごとと言いますと70%台から、少人数の学校があるのですけれども、100%までの接種率となっております。

以上、報告を終わります。

小田原委員長 報告は終わりました。本件についてご質問ございませんか。

水崎委員 私から2つ言わせていただきたいことがあります。1点は、副作用の報告があったかどうかというのを教えていただきたいのが一つ。もう一つなのですけれども、今お話の中で集団接種は八王子だけということでお話あったと思うのですけれども、来年度ももう集団接種で決まっているのか、それとも個別接種という方法に切りかえるということも選択の一つでこれから検討できるのか。と言いますのは、学校によっては1学年200人近い学校もあるのですね。そうすると、授業時数を削減してそれで接種をしているのではないかと思うのです。そういう影響が果たして学校にあるのではないかなと私は心配するのですけれども、そこら辺は一度学校に意見を聞くという機会を持つのも必要なのではないかと思います。その上で学校でも支障がないと、今年度のようにやることは全く影響がないから大丈夫ですよということになればいいのですけれども、やはりそこら辺は今年度の結果を受けて学校に聞いてみるということは必要ではないかと思います。

野村学事課長 まず、副作用のお話ですけれども、副作用の報告はありません。また、当日接種をした中で気分が悪くなったという生徒さんは数名おりました。たしかに暑い時期に実施したということもありそういう影響もありました。それから個別接種の切り換えも含めて本市として来年どうするかということですが、麻しんの接種、法が改正されたのは、やはり重篤な病状に陥る可能性のある麻しんを封じ込めよう、一掃しようという国の方針に基づいて行っています。要するに、特に集団生活を行う学校においては、こう

いう感染症を防いでいかなければいけない規模があると思っています。そのためには、やはり接種率を上げるとというのが第1番の目的だと思っていますので、今後、今年はたしかに2学期までにわたり、授業に影響もあった学校もあったかもしれないのですけれども、その辺は事務的に早く、先ほども申し上げたとおりに進めて、なるべく授業時数には影響がないように進めるべきだと担当では考えておりますけれども、本市全体の中で麻しん対策会議などもございますので、その辺で今年の実施状況を報告した上で市としての判断をいただけたらと思っています。

小田原委員長 この件についていかがですか。

水崎委員 ありがとうございます。学校にも一応この結果を出して話を聞くという、そういうご返事と受けとってよろしいのでしょうか。

野村学事課長 学校さんの方にも不都合があったかどうかというのは、今度養護教諭の集まりを小と中と持つ予定であります。その中で反省会と言ったらおかしいのですけれども、いろいろな学校さんの事情というのはお聞きする予定になっています。

小田原委員長 どうですか。先ほど、水崎委員には、集団で受ける場合に授業に支障があるという話があったのですが、受けなくて感染して学校を休むということが起こり得るし、全員がこういう形でもって、全員ということはないのですけれども、受けない場合に流行って学校が休校になるということを考えると、どういうふうに対応するのがいいかという観点が必要だろうと思いますよね。

野村学事課長 一つ追加のご説明、補足になりますけれども、ここで言う接種率は、今、例えば罹患している生徒を引いているのではなくて生徒数のところは在籍数になっておりますので、実質的の接種率というのはこれから精査をしなければいけないと思っています。ただ、学校全部の学校から罹患者について調査を行っていませんので、そこはまだ途中の数字ですけれども、ですから88.09%上がる可能性はありますけれども、ということになります。

水崎委員 きょう時間もないのであまり長く引き伸ばすつもりはないのですけれども、本来これは親の責任、家庭の責任じゃないかなと思うのですね、接種するのは。だから、もちろん集団で接種する、それが一番効果はあるのかなと思いますけれども、学校で支障があるのであれば、支障があるにもかかわらず学校で受けさせる、それを選択するのが果たしてどうかなと思ったもので、そこら辺は私も学校の事情、一々聞いたわけではないので、今度養護の先生とヒアリングしてくださるといっているので、そこら辺もよく聞いていただいて、

八王子の子どもたちにとって一番いい方法、学校にとっても影響の少ない方法、それをやっていたのが一番いいかなというのが私の思いなので、よろしくをお願いします。

小田原委員長　　ということですが、よろしいですか。時間がないので私も控えますけれども、新型コロナウイルスとかいうことに対して、ただ麻しん対策だけではなくて対応することは多分会議で考えていると思いますので、そういうのを含めた対応をぜひお願いしたいと思います。

野村学事課長　　新型コロナウイルスに関しては正確な情報提供を常に行っていく考えで、先日、学校長を対象に、新型コロナウイルスの現状について講習会をしたところです。今後、保健所から管理職及び教諭、一般の先生に対しても、同じような研修を行う予定になっています。

小田原委員長　　ありがとうございました。その他、何か本件についてございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　　特にないようでございますので、学事課からの報告は以上ということにいたします。

小田原委員長　　開会の際にお断りしなければいけなかったのですが、テレメディアが入っております。この件については冒頭に私から許可を与えなければいけなかったのですが、今頃になり大変申しわけないのですけれども、遑って、取材が入っておりますけれども、この件について何かございますか。特に皆さんの方で映されたら困るという方いらっしゃいますか。

傍聴の皆さんはいかがですか。よろしいですか。テレビが入っておりますので、それは私から許可いたしたいと思っておりますので、よろしくご協力いただきたいと思います。

小田原委員長　　では、引き続きまして、指導室からご報告願います。

石垣学校教育部長　　きょう、由井学校教育部参事がちょっとけがをしまして出席できないので、私から報告させていただきます。

本年6月25日にご逝去されました、元第六小学校長の山田正義氏の死亡者叙位につきまして報告をさせていただきます。報告につきましては古川主査からさせていただきます。

古川指導室主査　　死亡者叙位の受章者でございますけれども、今ありました、元八王子市立第六小学校長山田正義氏、享年96歳でございます。

受章の内容でございますけれども、叙位といたしまして、従六位でございます。発令年月日、申し上げましたお亡くなりになられた日、平成20年6月25日でございます。

経歴、簡単でございますけれども、教育公務員といたしまして35年6月勤められまして、校長といたしましては、昭和41年4月から恩方第一小学校長を2年間。昭和43年4月から第六小学校長を4年間勤められました。また、平成11年12月には高齢者叙勲といたしまして、勲五等、瑞宝章を受章された方でございます。以上です。

小田原委員長 学事課からの報告は終わりました。

本件について何かご質疑、ご意見ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 褒賞叙位を受章した報告でございました。どうもおつかれさまでした。

引き続きまして事務局からご報告願います。

宇都宮指導室統括指導主事 平成20年度全国学力・学習状況調査結果の分析についてご報告申し上げます。これは文部科学省が実施したものでございます。具体的には指導主事から説明させます。

小林指導室指導主事 失礼します。私、指導主事小林から、平成20年度全国学力・学習状況調査の分析についてご報告いたします。調査の概要については、資料の1ページをごらんください。

教科に関する調査。国語科、算数科、数学科の調査の結果については、それぞれ主として知識に関する問題のA問題と主として活用に関する問題のB問題の2種類を実施しました。

まず、教科に関する調査。国語科、算数科、数学科の調査の結果について説明いたします。

資料2ページからごらんください。5ページまでが小学校6年生、6ページから9ページまでが中学校3年生の結果です。国語科、算数科、数学科、それぞれ学習指導要領で示されている領域、評価の観点、問題の形式ごとに平均正答率をまとめました。そして平均正答率が70%を下回る一つ一つの問題に注目して、指導の改善に向けてのポイントを示しています。

2ページ、3ページをごらんください。小学校の国語科については、言葉についての知識、理解、必要な情報を正しく取り出す力、条件に応じて正しく書く力などに課題が見られます。指導の改善に向けては、例えば言葉の意味や使い方を確かめながら読んだり書いたりすることや、集めた情報を整理しながら必要なものかどうか確かめること。同級生に説明するために書いた文章を1年生、2年生に向けてわかりやすく書きかえる活動などが

考えられます。

4 ページ、5 ページをごらんください。小学校の算数科については、知識、理解の面、筋道を立てて考える力などに課題が見られます。指導の改善に向けて各学年の系統性、低学年からの学習の流れを踏まえて学習すること、生活と結びつけて学習することが大切です。例えば、割合の学習では、割り算は掛け算の逆の計算であることを復習したり、定価の30%引き、降水確率70%など、百分率が使われている場面を児童自身が探し出したるなどが考えられます。面積と体積の学習では、計ったり計算したりする前に、長さやかさなどを学習した経験を活かしながら大体の大きさをイメージするなどして量について豊かな感覚を育てることが大切です。また、筋道を立てて考える力を身につけるためには、図や表、グラフなどを使って、児童が順序よく説明する活動が大切です。

6 ページ、7 ページをごらんください。中学校の国語科については、言葉についての知識、理解、説明などを書く力、正しく読み取る力などに課題が見られます。指導の改善に向けては、辞書を引くときには言葉の意味を予想しながら調べたり、読書を通してさまざまな言葉や表現に親しませたりすることが大切です。また、資料から読み取ったさまざまな情報を図や表に整理して比べて共通する点や違う点をまとめる活動などが大切です。

8 ページ、9 ページをごらんください。中学校の数学科については、知識、理解の面、説明する力などに課題が見られます。指導の改善に向けては実物を使って確かめたり実験したりするなど、体験的に学習することや生徒自身が問題の解き方を説明する活動などが大切です。

次に、10 ページをごらんください。生活習慣や学習環境などに関する児童・生徒の意識調査と教科に関する調査結果との相関についてです。

質問に対して当てはまる、どちらかといえば当てはまると肯定的な回答をした児童・生徒の正答率と否定的な回答をした児童・生徒の正答率の差が大きかった順にまとめました。上位の項目について、小学校は算数に対する関心、意欲、態度に関する項目が多く、宿題などの学習習慣、規範意識、自尊意識、朝食などの生活習慣に関する項目が続いております。中学校は、朝食を毎日食べていますかという生活習慣の項目が最上位で、国語、そして数学に対する関心、意欲、態度、学習用具の準備などの生活習慣に関する項目が続いております。

こうした結果を踏まえて、指導の改善に向けてのポイントを11 ページにまとめました。特に生活習慣の改善や学習習慣の確立については、家庭の理解と協力が必要です。

続いて12ページをごらんください。今回の調査の成績上位校や19年度の全国学力・学習状況調査、東京都の学力向上を図るための調査の結果と比べて、正答率が著しく上がった学校に学力向上に向けた取り組みを聞き取りました。これらの学校の傾向としては、少人数学習集団による指導、習熟の程度に応じた指導の充実、授業研究の推進による授業力向上、そして指導法の開発、補習、家庭学習など個別指導、繰り返し指導の場の設定、児童・生徒が自分で考え自分で判断し自分で表現する問題解決的な学習の推進、主体的な学習活動の工夫、国語科を中心とした言語活動の重視、生活習慣の改善、そして学習習慣の確立などについて組織的に取り組んでいることが上げられます。

今後、本調査の分析結果を踏まえて次のとおり取り組んでいきます。13ページをごらんください。本調査の分析結果と平成19年度東京都学力向上を図るための調査、平成20年度八王子市学力定着度調査の結果と照らし合わせて21年度の学力向上施策を検討してまいります。学校には学校訪問や校内研究会等を通して、分析結果や成績上位校の取り組み事例を踏まえた指導資料を提供するなどして、学校の実態と課題に応じた校内研究の推進と、その成果を生かした指導法の工夫にして指導、助言してまいります。

各学校には、調査結果について、市全体のデータ資料を配付しまして適切に活用させることで教育活動を一層の充実を図ります。また、八王子市ホームページを通して、市全体の調査結果、本資料を公表するとともに、学校では保護者会や個別面談などを通して、朝食、家庭学習、学習用具の準備など、生活習慣の改善と学習習慣の確立について啓発を図ってまいります。以上でございます。

小田原委員長 指導室からの報告は終わりました。本件につきまして何かご質疑、ご意見ございますか。

和田委員 まず、基本的なことをお伺いしたいのですが、この学力・学習状況調査の結果を学校への周知、どの程度までされているのか。具体的に学校が受け取る資料としては、自分の学校の位置づけと言いましょか。どの程度のところにあるのかというのは十分理解しているのかとは思いますが、その辺のまず情報提供をどの程度しているのかということをまず1点。

それから、2点目は、この調査の結果は、一人一人の子どもたちにも結果が返っていますよね。その活用について、まず学校にどのようなご指示をされているのか、そこをまず確認させてください。

小林指導室指導主事 まず、学校へのデータ提供でございますけれども、学校全体の平均

正答率ですとか度数分布表、学校全体の傾向をとらえるデータが行っております。そして児童・生徒、一人一人の個人別のデータが提供してございます。一人一人の子どもについての今後の学習に向けての活用でございますけれども、まず、結果を自分たちで客観的に認識させることで、今後の学習の目当て、生活改善の目標などを立てさせていると思います。そして保護者会、個別面談等々して保護者にも説明して、理解と協力を求めているところ です。

和田委員　それで、今のここに示されている各学校の、ここでは成績上位校等の取り組みについて紹介されているわけですが、学校にとって指導が不十分であるのではないとか、あるいは学校の結果を踏まえて、これからの学習に向けてかなり具体的な対応であるとか、そういうものを求めていると思うのですね。そういったものについて、かなり進んでやっているところはこういういろいろな成果が出てくるのですが、取り組みとして足りないなとか、もう少しこうしたらいいのではないかという、そういう問題点を指摘すると、どういう取り組みが足りないのか、その辺のところをまず一つ教えていただきたいと思います。

それから、2つ目は、個人表がいて成績表を受け取って子どもに渡すわけですが、その後保護者、あるいはそのことについて学校と保護者との間で何か交流を図るような、あるいはやり取りをしてこれから子どもたちをこういうふうにしていこう、こんな指導を学校がやっていくので家庭も協力してほしいという、そんな取り組みをしていたら紹介していただきたいと思います。

小林指導室指導主事　学校では具体的に分析結果を活用して、生かす形で授業改善推進プランというものをまた見直し修正することがあります。そこで自校の分析結果と実態を照らし合わせて課題を明らかにしてそこで具体的な方策を明確に表わすように指導、助言しているところです。そして、保護者と学校との連携でございますけれども、具体的に保護者会等で自校の分析結果、資料を共有した後に、個々の子どもについて、課題、そして目当てを明確にするとともに、保護者に学校の中に入っていただいて、ボランティアとして授業に参画していただけたら、そういった取り組みが見られます。

小田原委員長　先ほどの和田委員のお話は、学校の取り組みを具体的に出させるというよりも、いい例としてはここに挙がっているのがあるのだけれども、そうじゃない取り組み、ここが欠けているのではないかというところについてはどうなのかと、どういうふうに対応しているのかということをお聞きしたいということがあったわけですね。それから、保護者が学校にボランティアで入るということをお伺いしているのではなくて、保護者に

も伝達、どういうふうにしていったって、保護者と学校との取り組みというのはどういうふうになっているのかということをお聞きしていると思ったのですが、その点の答えがあまり見られなかったので、そこをもうちょっと言えますか。

宇都宮指導室統括指導主事 成績上位校の方は、特に参考事例として、いわゆる下位校かの取り組みについて、こういったいい事例があるのですよと示したいがために上位校のものについて取り組んでおります。明らかに指導室としても成績上位校でないものも把握はしていますので、そこについては上位校の取り組みについて具体的に示すような形でご相談しながら示してまいりたいなと思っております。

それから、先ほど保護者と学校とのかかわりということでございましたけれども、これにつきましては授業改善推進プランというのを当然示して、これは教職員が自校の結果について分析をしておりますので、それを示すのももちろんなのですが、学校説明会等で学校長の学校経営計画、または学校経営方針の中で具体的な取り組みについて示していると。具体例を言えば家庭での学習習慣、もっと具体的に、例えば家庭学習を30分やりましょう、学年掛ける5分をやりましょうとかいったものを学校経営計画方針の中で示して保護者に年度当初ご協力を願っているという事例がございます。以上でございます。

小田原委員長 ということですが、どうですか。

和田委員 それではあまり時間をとってもいけないので、私の最後の意見として申し上げたいのですが、こういう学力調査の平均値が上がるというのは、現象としては上部にいる成績のいい子どもたちが結局成績を引き上げているのですね。結局そういう子たちが多くなると成績は上がるわけですよ。要するに平均値を外に示しているということはね。その中でよくやっているという子は学力で学習面でも非常によく勉強しているし、いろいろな家庭面でも、家庭の支援のある中で伸びていくのですよね。そういう学校が多いと成績は高くなるのですよ。だけど、これから八王子市の教育委員会としてやっていただきたいことは、やはり下にいて平均点に上がってこない子どもたちもたくさんいるということなのですよね。ですから成績の思わしくない子どもたちにどういった支援をしていくのかということ、やはり方針として示してほしいなということなのです。そのためにも、保護者の方に丁寧に個票を見ながらその結果についてご指導いただいて、やはりこれから伸ばしていかなければいけない子どもたちを支援する態勢をつくっていただきたいと思っております。

小田原委員長 先ほど小林指導主事が子どもたちに個票を渡すという話があって、それを

見て客観的に子どもたちが自分の学力を把握して、その客観的に把握するって把握の仕方、これが保護者にも客観的に把握できるような形があって、そして先ほどの説明の中にも家庭との連携というのですか、家庭での生活習慣がかなり学力調査に影響していると、関係しているかというお話だったものですから、そのところをもう少し丁寧に私たちとしてはかかわっていかなければいけないのではないかというご意見だと思うのですね。特に何かこれに関して発言があれば。

宇都宮指導室統括指導主事　先ほどの上位を上げて生活習慣が定着しているというのもございますけれども、八王子はご存じのとおり地域が広うございまして、やはり課題を持たれている校長先生方とお話をしますと、二極化まではいかないのですけれども、やはりこぶが2つあってそのどちらかというところ、要するにこれから努力を要する子どもたちに対して手当をして平均点を挙げていきたい。それについて学校がどう取り組んでいったらいいか相談に乗ってくれというようなお話をたくさん聞いております。以上です。

水崎委員　私も、今の和田委員のお考えに似ているのですけれども、学力調査、全国、東京都、八王子市、3つの学力調査をしていると思うのですね。それぞれ目的があって調査も分析されて改善策も立てられてとやっていると思うのですけれども、全体の学力を上げるというのもとても必要で大事なことだと思うのですけれども、平均点も一つの目安にはなると思うのですけれどもね。いつも私この学力調査の結果を見ると、私は一人の保護者市民という感覚でちょっと違った見方をしてしまうのですね。もちろん和田委員と共通している部分もあるのですけれども、ちょっと3つだけ私の意見を言わせていただければと思います。

やはり学力の優れない子ども、不振な子ども、その子どもたちにどう個別の支援をしていくか、それが大事ではないかなと思うのです。今回のこの学力調査でも、正答率がゼロの子どももいると思うのですね。そして数問しかできなかつた子ども、こういう子どももいると思うのですよ。そして調査の対象になっていないほかの学年でも学力不振の子どもはいるわけなのです。そしてもちろん学校の勉強だけがすべてではないと、私もそれはわかるのですけれども、やはり社会に出てから困らない程度の学力、生きていく自信に繋がる学力、それだけはつけてやらなくちゃいけないというのは、私すごく感じているのです。そして今、学校では、いろいろな学習支援で工夫して対策をとってくださっていると思うのですけれども、もう学校の努力だけではやっていけない、そういう状況も正直あるのですよね。人もお金も足りない、そういった状況もあります。そしてボランティアの

活動の範疇を超えている状況、そういうところもあるのですよ。そしてあと、学校で人材を探してきたり学校の予算で賄うにはもう限界があるという状況もあります。もちろん八王子は学校数も多いので、すべてではなくてそれぞれの学校の状況にもよるとは思うのですが、ぜひ必要としている学校には、教育委員会として今以上に学習指導ができる人材を配置する、そして必要な予算措置をする、これはやはり早急に手を打っていかないといけないと思うのですね。いつも人がいない、お金が足りない、こういうことを言っていると、もう子どもたちは育たないし、救われないと思うのですよ。財政が厳しいというのは私もよく承知はしているのですが、やはり子どもたちを育てるのにかけたお金というのは、子どもたちが将来大人になって税金を払う歳になったときに、きっとその分、自分にかけてもらった分は、八王子を愛して、八王子を支えて、きっと返してくれるだろうと、私はそう思っているのです。だから、ぜひ、何とか支援を必要としている学校、子どもたち、この子どもたちには力を入れてやっていただくようお願いしたいと思います。

それともう一つ、やはり特別支援教育、これの充実が必要ではないかなと思います。通常学級における支援を必要としている子どもたちの教育の充実ですね。これは幼稚園、保育園、小学校、中学校、この連携とか専門家との連携とか、これは充実させていかなければいけないですし、ともかく支援を必要としている子どもたちを早くに発見し早くに対応する、これはとっても大事なことだと思っています。もちろん今もやっているのだろうとは思いますが、適切な支援を要する子どもたち、この子どもたちは適切な支援をすることで小学校から中学校に行き、そして大人になったとき、とても生きていく上で必要な、支援をすることで必要な学習をしていくのですね。だから、それもやはり考えて、早くにこの子どもたちに必要な手だてはしてあげなくてはいけないのかなと思います。それには今、学校も努力はしていますが、やはりまだ不十分な状況、それはあると私は感じています。そして、この特別支援を必要としている子どもたちというのは、だれでもいいというわけではないのですよね。その子どもの特性を理解できる人、経験がある人、専門的に知識を持っている人、そういう人の支援が必要なのですよね。先ほどの話と同じようになりますけれども、ぜひ生活支援、学習支援に必要な人材を配置する、そして必要な予算を措置する、これを今以上に考えていかないと、この先心配な状況は続くと思います。

あともう一つです。ちょっと長くなってすみません。質問紙による意識調査の結果なのですが、この質問項目はかなり量があると思うのですね。そしてこの質問項目は学

力との相関関係を見るための質問紙だろうとは思いますが、私は、この結果を見て、このままでいいのかなという項目があるのですよね。その項目によったら本当に胸が痛むような項目も正直あるのですよ。子どもを育てるのは家庭の責任、保護者の責任だとは思いますが、やはり家庭によったらいろいろな課題を抱えている家庭もあるし、事情を持っている家庭もありまして、なかなか子どもが家庭で育ちにくいという状況が正直あるのですよね。でも、その子どもたちを放っておいていいかといったら、それはもう、みんなで育てていかなければいけないと私は思っているのです。そして、この項目の中にぜひ地域の人にも取り組んでもらえる、協力してもらえる、そういう項目があるのですよね。もちろん学校も家庭もやっていかななくてはいけないのですけれども、地域もこういった項目の結果を見ていただいて、じゃあこういうことができるか、ああいうことができるか、そこら辺も地域の力をいただければ、さらに私は子どもたち、いい成長ができるのではないかなと思っています。ぜひ学校も家庭も地域も、幼稚園、保育園、そして行政の福祉の分野の方にも、こういった内容はちょっと意識をしていただいて、一緒になってみんなを育てる、それをやはりみんなで取り組んでいかなないと、なかなかこの先そんなにいい状況には改善されないかなと思います。

長くなりましたけれども、この3つに力を入れることで結果的には八王子の平均点も、学力の平均点も上がってくると思いますし、何よりも子どもたちに笑顔が多くなるのではないかなと思います。もちろん私も一緒になってやっていきたいと思いますので、ぜひ人材配置、必要な予算措置、ここら辺は何とか子どもたちのために工夫していただければなと思います。

以上、長くなってすみません。よろしく申し上げます。

小田原委員長　ご質問という形ではない、ご意見ということでお伺いしてよろしいのですか。何かございますか。今の水崎委員のお話について何かございませんか。もう時間がありませんので、2番目に挙げた学校の努力だけでは対応できない。あるいはボランティアの力を超えているという話の内容ですけれども、具体的な、今どういうことを言っているのかということについては、もしあれば後で示していただきたいと思います。

その他、何かございませんか。今水崎委員のご意見は、一緒に事務局がやるだけではない。予算措置もいろいろありますから、それは私たちの責任として考えなければいけないことです。ですから、こういうことについてはどういうふうに取り組んでいくか、今予算措置編成の最中でございますので、そこに反映させていかなければいけないだろうと思います。

その他、特にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　では時間がないうちで大変申しわけないのですが、指導室からの報告は以上ということで、いろいろございますので、今後対応は丁寧にやっていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

他に何かありますか。事務局から何かございますか。

教育委員会の事業進捗状況。これ最後にある長いあれですね。これについて事務局からご報告願ひます。

桑原生涯学習総務課長　それでは、平成20年度の事業の進捗状況について、本日お手元に配付してあります資料の一覧のうち的主なものについて、各担当課長より、申しわけございません、自席でご報告させていただきます。

まず、資料の1番目。放課後子ども教室の進捗状況について報告いたします。

本事業は、放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図る目的で、文部科学省及び厚生労働省が連携を行い、平成19年度から総合的な放課後対策として実施する放課後子どもプランを創設いたしました。これによりまして、本市では平成19年度から、市内の小学校において、放課後や夏休み等に小学校内の施設を活用し地域や学校の協力を得て、子どもたちに放課後の安全で安心な居場所を提供するため、放課後子ども教室事業の実施を決定し、事業に着手したところでございます。これによりまして、平成19年度では8つの小学校で開催することができました。また、現在、平成20年10月現在で12校の小学校で実施しております。今後も未実施の学校での開設に向け、事業を推進してまいります。報告は以上でございます。

天野教育総務課長　続きまして、2番目の地域運営学校についての状況でございます。

地域運営学校につきましては、コミュニティスクールなどとも呼ばれておりますが、地域の皆様や保護者の方の教育や学校運営の意欲や関心が高まっていること、そういったことから、こういった方々が一定の権限と責任を持って学校の運営に参加ができ、そのニーズや意見を反映できる制度としてできたものでございます。この運営のために学校運営協議会を設置しているもので、本市では平成19年度より施行実施しています。現在は7つの学校がこの地域運営学校という形で取り組んでおります。それぞれの学校で学力向上、それから地域参加型の事業の支援など地域に応じた取り組みがされておまして、来年度以降も拡大していく予定でございます。以上でございます。

海野学校教育部主幹　それでは、適正配置にかかわる事業についての報告をいたします。

20年3月末に審議会から答申が出まして、現在、教育委員会の中で基本方針の検討を重ねてきているところです。今後につきましては、総合政策部あるいはまちづくり計画部と市長部局の関係所管等との調整を図るために協議会を設置したところでございます。11月14日に第1回を開催いたします。以上です。

小松学校教育部主幹　それでは、8番、中学校給食事業につきまして進捗状況をご報告いたします。

本事業の実施方式につきましては、学校給食法に基づきまして給食を希望する生徒等に主食、副食を別々の弁当容器に盛りつけまして学校へ配送する弁当を基本とし、家庭から弁当の持参も選択可能とする弁当併用デリバリーランチ方式を採用しています。給食の調理につきましては民間委託業者に委託をいたします。献立につきましては、本市栄養士が国、都で定めます栄養摂取基準及び食品構成に基づきまして献立を作成する予定でございます。

右の欄、進捗状況について報告いたします。2番をごらんください。現在、調理業務等委託業者の選定が完了いたしております。市民の代表であります方々を含みまして選定委員会を設置いたし、9月11日に業者を選定完了しております。

続いて、その下、4番の保護者の説明会でございます。これにつきまして、学校教育部総力を挙げまして、全37校の説明会を現在実施及び準備をしているところでございます。現在まで9校が終了いたしまして、市役所本庁舎を含めまして600名を超える保護者にご説明を行っております。特に小学校6年生の保護者も参加していただく中で関心の高まりが見られております。

今後の予定でございますが、保護者説明会の後、実際に中学校給食の状態を知っていただくため、2月を予定しております試食会の実施に向け今準備を進めております。以上であります。

宇都宮指導室統括指導指導主事　続きまして、教育支援人材バンクについてご説明申し上げます。

金井指導室指導主事　教育支援人材バンク事業の進捗状況についてご報告いたします。

今年度教育支援人材バンク事業は人材バンクセンターの開設や学校事務局の設置など大きな改革を実施いたしました。

登録ボランティアにつきましては、人材バンクセンターへの登録者と各学校での登録者に

絞って集計するようにし、現在その数は、資料左側中段にあるとおりです。

今年度当初に比べ不特定の学校への派遣が可能な登録ボランティアは、およそ120名の増となっております。人材バンクの組織については教育センター内に人材バンクセンターを開設するとともに、小学校15校、中学校10校に学校事務局を設置し、各学校において保護者や地域の方にコーディネーターをお願いして、コーディネーターによるボランティアの派遣を始めています。

人材バンクセンターでは、資料の中の四角囲みにあるように、ボランティアの登録及び派遣事務とともに、研修会等を通しての各学校のコーディネーター育成を中心に活動しております。学校事務局については来年度以降も順次設置を進めてまいります。なお、学校事務局が設置されていない学校については、現在人材バンクセンターとの直接やりとりが中心になっていますが、今後近隣の事務局設置校との協力体制をさらに整備してまいります。

最後に、文部科学省の学校支援地域本部事業について若干振れさせていただきます。

学校支援地域本部事業は、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上をねらいとしており、ねらいだけでなく組織についても本市の教育支援人材バンクと共通する部分が多いものです。10月にこの事業の第4次募集に応募し、来年度も継続して事業を進めていく方針です。以上で報告を終わります。

遠藤スポーツ振興課長 総合型地域スポーツクラブについてご報告申し上げます。

申しわけございません。資料の2枚目の一番上をごらんください。総合型地域スポーツクラブについてご説明申し上げます。総合型地域スポーツクラブにつきましては、子どもから高齢者まで、さまざまなスポーツを愛好する人々たちが初心者からトップレベルまでそれぞれのレベルに合わせて参加できるという特徴を持ち地域住民により自主的、主体的に運営されるスポーツクラブでございます。八王子市では体力づくりから総合型へということを設定いたしまして支援してまいりましたが現在10クラブ立ち上がっております。これからも立ち上がるクラブがあると思いますが、今後は活動拠点の整備について支援してまいりたいと考えております。以上でございます。

小田原委員長 事業進捗状況につきましては以上でございますが、いろいろご質疑あるかと思えますけれども時間の都合でご報告ということだけで終わらせていただきます。特に何かご発言あれば、よろしいですか。では1件どうぞ。

若林生涯学習スポーツ部主幹 それでは、このほど八王子市民球場のスコアボードの改築

工事を行いますので、大変恐縮ではございますが口頭にてご説明申し上げます。

平成25年に開催されます東京国体に向け、高校野球等の会場となります富士森公園内の八王子市民球場にバックスクリーン一体型のスコアボードを新設するものでございます。ポールを除く高さは16メートル。横幅22メートルで、スコアボードの表示板は磁気反転式を採用し、コンピュータ制御による遠隔操作となります。工期は本日から来年2月27日までとし、野球場は3月31日まで閉鎖となります。なお、国体事業ということで工事費の2分の1を東京都が補助することになっております。以上で、簡単ではございますが報告とさせていただきます。

小田原委員長 スポーツ振興課からのご報告がありました。何かご質疑、ご意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

小田原委員長 それでは、定例会における報告事項は以上ということですが、委員の皆さんから何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

小田原委員長 それでは、以上で予定された審議はすべて終わりました。以上で本定例会を終了いたしたいと思っております。

【午後18時55分閉会】